

北九州市の乳幼児検診方式における保健指導の研究

園田真人 北九州市衛生局

1. 北九州市における乳幼児検診の推移

北九州市の乳幼児検診は、昭和43年まで、保健所の乳幼児クリニックと乳児一斉検診という方式をとっていた。

この方式では、年1回の乳児一斉検診では受診のチャンスが少なく、保健所のクリニックも同一人が幾度も来所するだけであり、かならずしも受診率は向上しない。両者をあわせた受診率は、わずか38%であった。

① 母子管理システムの検討

乳幼児だけでなく、妊娠の時からチェックが大切であるということから、母子管理カードを作成し、母子健康手帳を改めた。すなわち、母子健康手帳の中に妊婦の健康診査、4カ月児、7カ月児、1歳6カ月児、3歳児の受診票を入れた。

② 乳幼児検診の発足

健康診査は専門医の窓口で、その検診が終わったものは、保健所で栄養、養護、精神発達などの保健指導をおこなうという、北九州市方式を考えだ

した。

しかし、発足当時は、保健婦たちは仕事がなくなると反対し、検診をする医師たちは、保健所のかたがわりだと反対したが、乳幼児の異常の早期発見のためと、ホームドクターの位置づけのために必要だと説得したものである。

③ 以後の成績

乳幼児検診の受診率は、表1のように、次第に上昇し、4カ月児では88%を示している。

心臓疾患や先天性股脱のような先天性異常は各年令層において、同率に発見されており、この検診の意義がみられる。

専門医（開業医）のホームドクターとしての位置が確立されてきた。

専門医によって、異常が発見されると検診票は保健所の保健婦にまわされ、すぐに訪問指導がおこなわれる。

いたずらに多忙であった乳幼児クリニックが整理されて、保健婦の活動に余裕がみられるようになった。

なった。

2. 問題点

この方式が実施されて16年目をむかえ問題点もみられる。

① 4カ月児の受診率は最高88%であるが100%ではない。これは、大都市の人口移動によるもので、このような対象をどうするか、今後の課題である。

② 異常を発見しても受け皿がないと困る。幸い、北九州市では、障害療育センターが充実してい

表1 健康診査受診率と保健指導来所率の推移 (数値は%)

区分	健康診査				保健指導			
	4か月児	7か月児	1歳6か月児	3歳児	4か月児	7か月児	1歳6か月児	3歳児
昭 44	79.1	67.3	—	—	34.6	26.8	—	—
45	74.5	67.9	—	39.1	30.5	22.7	—	19.2
46	82.1	73.3	—	46.8	31.7	25.4	—	28.6
47	84.4	74.9	—	50.4	30.9	22.8	—	29.4
48	81.0	73.0	—	56.0	30.2	22.8	—	41.6
49	82.0	76.0	—	57.0	30.7	22.3	—	41.2
50	85.2	81.0	—	56.3	27.9	21.9	—	40.3
51	80.3	74.7	—	48.1	24.8	18.6	—	38.9
52	80.1	77.5	—	52.2	24.5	19.3	—	39.0
53	81.6	78.9	58.3	58.7	25.1	20.2	25.6	34.2
54	81.5	76.3	57.9	54.6	26.4	20.4	24.2	32.1
55	88.1	87.1	64.0	55.8	25.5	21.8	20.6	28.9
56	88.7	85.0	68.3	55.4	27.9	23.8	22.4	27.4
57	88.4	85.5	68.0	55.7	27.6	23.7	20.7	27.3

たことが、この事業を発展させたのであり、すべての都市で北九州方式が実施できるものでない。

③ 表1でみられるように、4カ月児より7カ月児、さらに3歳児と、年令の上昇にともなって受診率は低下する。さらに、保健所の保健指導になると、30%以下になってしまう。この現象については、十分な検討が必要となってくる。

④ 3歳児の母親について、受診しない理由をきくと、忙しい、子供に異常がないから、とくに理由がないからというものが多く、商業のものに忙しいという理由が多いのは注目される。

3. 保健所の保健指導に対する母親の評価

上記のように、保健所の保健指導をうける比率が低いので、この評価の調査をおこなった。

① 調査対象は、北九州市の7保健所の4カ月児、7カ月児の保健指導に来所した母親317名であり、面接調査である。

② 家族の状況は、世帯人口は平均3.8人であり、児数は平均1.4人である。対象の79.4%は祖父母と同居しない核家族である。

③ 保健指導の情報源

北九州市の母子健康手帳には、医師による健康診査をうけたものは、保健所で保健指導をうけるよう記しているが、これを情報源としているものは5.0.3%であり少ない。受診した医療機関で知ったというものは5.2.6%、各戸に配布される市政だよりというものは4.0.0%、保健所は3.0.3%である。医療機関で情報をえたものほど、保健所に来所するものが多いことは、注目される成績である。

④ 保健指導の内容については、育児および離乳食全般にわたるどの項目についても、よくわかるというものは6.8%であり、よくわかるが知っていたものと合計すると7.6%以上になる。赤ちゃん体操などの実技をとりいれている保健所ほど、他の保健指導もよくわかると評価する傾向がある。

⑤ 保健婦による個人相談は、よかったというものは9.2.6%であり、評価は高い。

⑥ 保健所の指導する場所の広さについては、7.8%はちょうどよいと評価しており、椅子にすわる会場よりも、カーペットに坐るほうを高く評価している。カーペットに坐った母親は、小児をねかしたり、おむつをとりかえたりできるので大切なことである。

⑦ 保健指導の回数については、現状でよいというものは5.9.0%、もっとあったほうがよいというものは4.0.6%である。もっとあったほうがよいという要望は、第2子以上の母親より、第1子の母親ほど大である。

4. まとめ

北九州市の乳幼児検診方式は進展しているが、保健所の保健指導については検討される点がある。

保健指導をうける比率をあげるためには、検診する医療機関と保健所の連携を強化する必要がある。

現代の育児環境の中では、保健での保健指導は、さらに必要となっていくことが予想される。

内容、方法については、アイデアを結集し、保健所間の格差をなくし、実施することが望まれる。

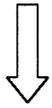
表2 保健指導に来所する情報源

複数回答、()は%

情報源	母子健康手帳	健診をうけた医院	市政だより	保健所	知人	その他	
保健所							
総数	310	156 (50.3)	163 (52.6)	124 (40.0)	94 (30.3)	33 (10.6)	2 (0.6)
門司	26	14 (53.8)	8 (30.8)	12 (46.2)	8 (30.8)	5 (19.2)	—
小倉北	67	38 (56.7)	31 (46.3)	18 (26.9)	30 (44.8)	3 (4.5)	—
小倉南	21	13 (61.9)	9 (42.9)	6 (28.6)	9 (42.9)	2 (9.5)	—
若松	38	9 (42.9)	26 (68.4)	20 (52.6)	6 (15.8)	4 (10.5)	—
八幡東	49	26 (53.1)	25 (51.0)	26 (53.1)	11 (22.4)	6 (12.2)	—
八幡西	72	28 (38.9)	41 (56.9)	19 (26.4)	23 (31.9)	9 (12.5)	1 (2.0)
戸畑	37	14 (37.8)	23 (62.2)	23 (62.2)	7 (18.9)	4 (10.8)	1 (1.4)



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用
論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



4.まとめ

北九州市の乳幼児検診方式は進展しているが、保健所の保健指導については検討される点がある。保健指導を受ける比率を上げるためには、検診する医療機関と保健所の連携を強化する必要がある。

現代の育児環境の中では、保健での保健指導は、さらに必要となっていくことが予想される。

内容、方法については、アイデアを結集し、保健所間の格差をなくし、実施することが望まれる。